

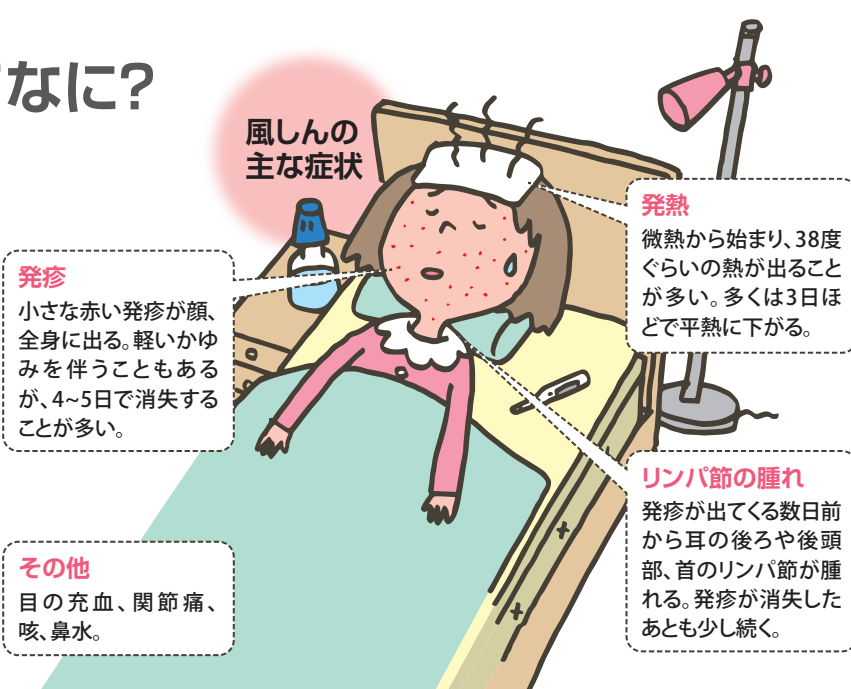
風しんにかからない&うつさないための

風しん抗体検査・風しん予防接種

事業管理部 営業契約室 室長 落合 和弘

“風しん”ってなに？

飛沫により人から人へ感染する、感染力が強いウイルスです。妊娠中の女性が感染すると、子どもに眼や耳等の障害を含む先天性風しん症候群(CRS)が生じる可能性があり、一度まん延すると、先天性風しん症候群の発生も増加する傾向が見られます。**自分と家族を守るために、風しんへの感染予防対策をしっかりとする必要があります。**



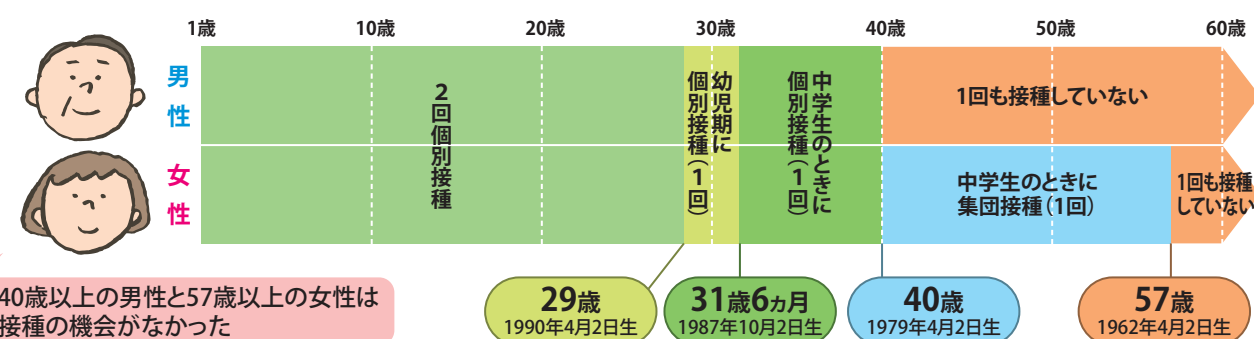
“風しんワクチン”で予防できる！

風しんは、ワクチン接種で予防できる病気です。1回の接種で約95%の人に抗体ができ、2回目の接種でその割合が99%に上がります。現在日本では、①1歳児②小学校入学前の1年の間の2回接種をするように定められています。

しかし、予防接種制度の変遷により1回しか接種を行っていない、あるいは1度も接種を行っていない時期もあり、性別や世代によってはワクチンの抗体保有率が低い現状があります。

年代別にみる風しんの予防接種制度の変遷 (年齢は2019年4月1日時点)

国立感染症研究所「職場における風しん対策ガイドライン 平成26年3月」をもとに作成

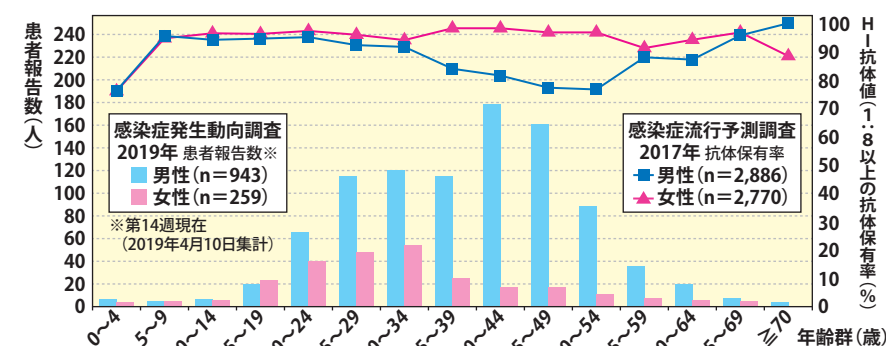


“40～50歳代の男性”は抗体保有率が低い

風しんの患者数は、2018年7月から関東を中心に増加しています。**患者は成人が多く、30代から50代の男性が大半を占めています。**特に1962年4月2日から1979年4月1日に生まれた男性(2019年4月現在で40～57歳)は接種の機会がなかった世代で、抗体保有率を見ても、女性及び他の世代の男性(乳幼児を除く)が約90%であるのに対し、当該世代の男性は約80%と低くなっています(出典:国立感染症研究所「年齢/年齢群別の風疹抗体保有状況」2013-2017年)。

男女別年齢群風しん患者報告数(2019年第1～14週)、風しんHI抗体※保有率(2017年)

出典:国立感染症研究所感染症疫学センター「風疹急増に関する緊急情報:2019年4月10日現在」



※抗体とは…体内に入り込んだ異物(風疹ウイルス)を排除する働きのある物質。風しんにかかったり、ワクチン接種を受けることで体内に保有できる。



“厚生労働省”の対応

厚生労働省は2019年4月1日から2022年3月31日までの期限付きで、1962年4月2日から1979年4月1日に生まれた男性を対象に、ワクチン接種を無料で受けられるよう政令を改正しました。ワクチンを効率的に活用するため、当該世代の男性はまず風しんの抗体検査を受け、十分な抗体がないことが判明した者に対して接種を行うこととしています。**対象の方は、健康診断と一緒に風しん抗体検査・予防接種をご受診ください。**

〈ご予約・お問合せ先〉 予約センター 受付時間:平日 9:00～16:30、土曜日 9:00～12:00 ※祝日除く

▶ 聖隷健康診断センター/聖隷予防検診センター ☎ 0120-938-375

▶ 聖隷健康サポートセンター Shizuoka ☎ 0120-283-170

巡回健康診断での実施に関するお問合せ先 受付時間:平日 9:00～16:30 ※祝日除く

▶ 地域・企業健診センター ☎ 053-439-8279

※巡回健康診断では、基本的に風しん抗体検査のみの実施となります。